價鐵五吊四百文至五吊
共上車三十餘輛
共來七十餘輛
六吊九百至六吊八百

一 フールスカップ全 四圓
一 中判洋紙全 二圓
一 半紙 野紙 百枚 二十錢
一 巻紙 四十枚續 十四錢

一 簞笥 三十圓以上三十五圓
一 卓子 四圓五十錢以上十三圓五十錢
一 卓子掛 六圓以上十二圓
一 廚房用戸棚 七圓五十錢以上十圓

一 長火鉢
一 箱火鉢 一對 二圓以上三圓五十錢
一 宜德火鉢 六圓以上九圓

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增

○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓

本支店出張所
橫濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室
百八番 事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告
プロメシュス號 二十二日着
營口丸 四月廿六日出帆 太沽、芝罘 門司、神戸行
山東丸 五月三日出帆 大沽、芝罘、門司、神戸行
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ
營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

瀛船出帆廣告
日海丸 四月廿一日入港
日東丸 廿四日入港
第二乾坤丸 廿四日出帆
乘船切符は弊行にて發賣仕候

注意
弊行取扱瀛船積載貨物に對しては無手數料にて迅速叮嚀を旨とし税關に對する一切の手續を取扱仕べく候

松茂洋行船舶部 (電話五二番)

新荷着
朝日ビール、スペシャルライト
廉價販賣仕候
滿洲一手販賣元
松茂洋行商品部 (電話五二番)

大阪商船株式會社
營口瀛船出帆廣告

代理店
能登丸 廿三日出帆 門司、橫濱行
盛航丸 廿四日 門司行
東營口公園地橫
ブッシュ兄弟商會
遠來洋行 (電話二十三)

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞此咐本十新到各種木料東洋炸子貨異價實以應各主顧局急之需國本主人啓

宅合名會社分莊

運輸部
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒洋鐵印井一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋綢子洋襪鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
運般特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一二

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜衆置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事 潘玉田 副理事 金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
保裝運各幫火輪船生意兼賣各報洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

丸三洋行分莊
啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋系身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價値格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸
丸三洋行分莊謹啓

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃 (電話九十五番)
西義順棧內 西櫃 (電話九十八番)

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(撲利)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉 諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船八口
摩耶山丸 穎朝丸
專往東洋各埠
啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客税已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行并各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷
松茂洋行 (電話五十一番)

三井
電話 第六十六號 第九十一號
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八号)

經理
○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售日本白米

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行
電話 第六十六號 第九十一號

生徒募集
營口瀛華實學院
招入學生
本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午四點過期不候特白
營口瀛華實學院
今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口 瀛華實學院

新荷着
▲板材木 ▲木炭
▲生石灰 ▲竹
▲亞鉛板 ▲洋釘
▲日本米 ▲疊

喜久洋行
營口永世街八十號
(電話百五十二番)

鐵道遼河裕和盛運輸局
在東營口西北街旗昌洋行對門
(電話八十一號)
啓者本號向在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟草代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓

稅關手續
一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣
敝公司昨年開業爾來引續キ營業罷在候處今般一層業務ヲ擴張シ艀船、市内貨物運搬及貨物保管等報實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依頼ニ應シ御立換可仕尚其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也
營口英國領事館東首 綏定門街第五〇
三仁公司 (電話一五〇號)
小島榮歲

上海 中井洋行
專運日本各式紙料
本行開設已歷多年曾與日本製造名廠有專銷之約凡新聞紙料印書精各式紙訂莊票包棉紗料草板紙張本機器連史紙五彩印字連墨具他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

丸重洋行
貨物運輸
啓者 本行前在營口臺實雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東清鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値爲貨主之利便爲旨 如蒙中外士商光顧請來營口西北街本洋行或牛家屯火車站構內分莊面議不悞
電話 營口 四拾八番 牛家屯 四拾六番

材木 荒物 販賣
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

齒科名醫到營
治療齒痛之法為衛生上必要之一端向未可以等本埠竟無良醫余深以爲憾頃二志士特請居天津之齒科名醫田添豐二君來營即在舊馬出洋行內從事治療先生前在天津法租界開業久爲中外人所信服其技術之良不玆不復贅如有患齒疾者請速至該處診視愼勿失此機會特此聲佈
營口有志者 同白

太古輪船公司
啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行碼頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口 太古輪船公司

遼河運輸同濟公司
本號經官准由營口包運東遼河各埠貨物凡客商有運之貨望交本號及各處分莊運送決無悞失如蒙 貴商光顧者請至本號面議特仰週知
東櫃開設 營口南永世街北斗洋行
西櫃開設 營口西北街塘子胡同內

倫敦電報

●保險事業特別取締の必要
米國大統領ルーズベルト氏は其議會に與へたる教書中に保險事業の弊害を矯正せむが爲めに特別取締規則を設くべき必要ある旨を説けり

●桑港大地震後報
米國桑港の大地震は午前五時に起り三分間震動せり市民は寢衣の儘屋外に飛び出でたり損害の最も甚だしかりしは同港の東北部なる製造業及び卸販賣業の盛むなる地方なりパレンシヤと云ふ五階の旅館潰倒して七十五人を埋沒せり又多數の借家人を有する一大家屋倒れて八十人を壓殺せり（以上四月十九日發電）

雜報

●奉天近事
（四月十九日 特別通信員報）

▲在住邦人の被害と善後策 瀋陽鐵嶺各地に於ける我居住商民の清國匪賊の爲めに危害を被るもの頻々として過日當地東門外に於ても一邦人は彼等の兇手に斃れ前夜また清人の爲めに負傷せる一邦人等ありて之が善後策に付ては滿洲在住邦人の均しく疑惑を抱く問題なるべきが今清國官塲當路者の意見なりとして漏れ聞く所によれば假令日本軍政施行中なりと雖友邦國民に對して適ゝ自國民中の匪徒ありて時に危害を加ふるものあるの一事は清國官塲に於て實に遺憾とする所なるを以て將來警察並に兵政の改良振肅を計ると共に過去の出來事に對しては一面速かに加害者を捕縛して嚴刑に處すると共に一面日本人の被害者乃至は遺族に對しては清國地方官憲に於て責任を負い相當の養療費若くは遺族扶助料を贈與するの意思ありと序に前記東門外に於て本邦人を殺害したる匪賊は百方苦心の結果四名中三名は已に去る十五日捕縛せられ目下警務處に於て張錫鑾氏自ら取調へ中にて罪跡殆んど確定せりとなり

▲城内捐税と邦人貨物 財政局史總辦の鋭意財源增加の計を爲すや爾來奉天省城内に於ける各種捐税の繁雜且つ苛重なること實に外客の一驚に値いす然れとも今日の所城内雜居せる邦人の貨物に對しては未だ課税徵收せず今ま其清國官塲當路者の意見なりとして聞く所によれば將來當地開放せられ各國租界設定の上は城内に入るべき各貨物及居住者に對しては清人同樣一律課税すべきも夫れ迄の期間は一切邦人並に邦人貨物に對しては各種の課税をなささる方針なりと談せり然れとも之を現在の所に於て見る邦人貨物に對しては邦人直接にてこそ課税徵收せずとも其貨物購買者に對しては一度貨物の引渡さるゝや苛重の落地税を徵收し又た貨物によりては厘金税の追徵をなすあり爲めに本邦商人より本邦貨物を購買せんとする清商は從つて其課税額を豫め過大に計算して時價より引き去つて附値し大取引上不便尠なからさるのみならす其清國當路者の所謂日本人に課税せすとの表示は外面の體裁のみ事實上に於ては些の相違なく否却つて不便なるものある現況なりとす

▲清語講習會 軍政署裏手婦人協會の構内に於て明十八日より清語講習會は開かるべき筈なり每夕午後八時より十時迄にして普く本邦商民に對して清語教授の目的にて一ケ月會費一圓なり教師は邦人一名軍政署通譯官中公務の餘暇を割きて名譽教授を撰任せられ清國人一名專ら其教授に任すへしと云ふ

●滿洲と英國議會
先般英國衆議院に於て滿洲貿易に關する質問答辨ありしが當時議員スミス氏は外務大臣に問ふて曰く日本官司は日本人以外の外國人か滿洲に入り若くは其の各港に上陸し若くは滿洲內地に貨物を送ることを防遏し以て英國貿易を防碍するの苦情あるか外務大臣は其の事を知れりや或は左る報に接せりや若し然りとせは外務大臣は日本官司に向て左る干渉を止むるの手段を執りし乎又日本軍か清國領土を撤退するの期日は幾日なりや其の此に在るか爲に英國貿易商と清國商人とをして自由に交易する能はさらしむと外務大臣グレー氏の之に答ふる所左の如し

如何にも貴問の如き趣意の苦情に接したり日本政府に向て照會に及びたり日本政府は曰く氣の毒なから日本軍輸送の爲に鐵道の必要あるを以て已を得す此の禁制に出てしなりと但し在牛荘英國領事の報告を以てすれは此の禁制は唯ゝ人に止りて貨物には及はさりし趣きなり然るに近頃に至り又英國商品に對して此の禁制を厲行すとの苦情に接したれは北京駐剳英國公使に向て本件の調査を命したり因て公使は公使館附商事視察員に命して牛荘に赴き事情を調査し報告書を出さしめたり日本軍か滿洲領土を撤退する期限は昨年八月廿三日訂結のポーツマス條約調印の日より十八箇月內に行ふへき規定なり

●滿洲開放の公示
五月一日より安東縣大東溝を六月一日より奉天を何れも開放すべき事は我東電の夙に報道する所なるが外務省に於ては愈ゝ去る十七日を以て其旨一般に告示ありたるを以て該開放は今や確定の事實たるを知るべく且つ近き將來に於て大連を開放し各國商民 自由通商に便するとも我外務省は已に締盟各國に向ひ公文を發したりといふ

●撫順炭礦の價値
日露戰爭唯一の獲得物たる撫順炭礦の價値に就きては世評區々にして未だ定說を見ずと雖も其有望なる一事は誰人も否定し能はざる所なるが今某氏が計算なりといふを聞くに其炭量は長さ五哩厚さ百四十四尺幅一哩總噸數五億二千萬噸の見込にして此計算は最も實際に近かるべしといふ而して目下每日の採炭高は二千噸位なりと傳へらる

●滿洲に於ける新事業
此の程滿洲を視察して歸朝せる神戸の小寺氏は滿洲開墾事業並に之に附隨して豆粕壓搾工塲を營口、芝罘の二箇所に起し小寺家獨力にて經營するに決し資本金は二百五十萬圓迄の計畫にて先づ滿洲地質調査の爲め技師を派遣し報告の結果頗る有望なるを以て直に豆粕壓搾器械一式を大阪鐵工所に注文したれば去る十二日同鐵工所製圖技師西田氏は現時英清人の營口にて經營中なる壓搾工塲視察の爲め神戸を出發したる由なるが聞く所に據れば近來英獨人も大豆耕作の好望なるを認め獨逸人の如きは山東、盛京兩省方面に亙りて頻りに土地を買入れつゝあるも彼等の資本は左して多大なるに非ざれば小寺氏が之と相幷んで經營するも成功の餘地十分なるものゝ如く今後同家にて營口幷に芝罘附近に廣大なる土地を借入れ邦人監督の下に清國農夫を使役して大豆耕作に從事すると共に附近の原料大豆をも買入れて壓搾器五十臺內外を据附け盛んに豆粕製造に從ふべしといふ

●普蘭店の馬賊
開原附近に馬賊出沒し討伐の團練會長李廉林が貫通銃創を受けたる事は前號の紙上已に記載せる所なるが我關東州管內なる普蘭店附近に於ても去る十二日三名の馬賊出現し掠奪を恣にせるを以て普蘭店警務部派出所の巡査五名巡捕六名逮捕に向ひ大房身附近にて一名を取押へたるも二名は逃散して之く所を知らず目下嚴に探索中の由なるが彼等は何れも銃器を携へ頗る不逞の惡賊なりといふ

●積德院連枝の出發 滯營中なりし西本願寺清國開教總監積德院連枝は隨行堀賢雄師及大連より出迎として來れる贄事龍江義信師を隨へ昨夜九時二十分牛家屯發滊車に搭乘し大連に出發せられたり

●小田切正金取締の着連 今回正金銀行滿洲總支配人に新任せる小田切萬壽之助氏は去る十八日大連へ到着せるを以て同地に四五日間滯在の上直に着任の筈なれば一兩日中に來營すべしといふ

●太田官補轉勤內定 六月より愈ゝ奉天に領事館を開設すると爲り既に領事以下館員も選定濟みと爲れる由なるが當領事館なる太田領事官補も奉天領事館在勤を命せらるゝことに內定せりといふ

●東鐵輸送業者の決議案 去る十九日其組合事務所に於て協議をなせし事は既報の如くなるが今其決議案とも云ふべき事項を聞くに取扱手數料の競爭を避くる爲め貨主の請求に依り荷車を供給するのみの取扱手數料と雖も公定運賃率の二割以上を請求する事及び無許可輸送業者取締上の必要より各組合員の店員又は直接業務に關係ある者には木札を交附し以て異の輸送業組合員なる事を明になす等の決議をなせりと云ふ

●遼河輸送組合の暗流 頃來道路の風說に依れば遼河輸送組合內に於て種々の波瀾を惹起し某々等策士連は竊かに密議を凝らし一種奇々妙々なる計畫を廻らしつゝあり組合全體に容易ならざる失態を來たすやも計られずと眞偽果して何れなるや記者は昨今之れが精探中なれば早晩細大洩らさず報道する事にせん

●本日の長岡子爵追悼會 日本人會會議室に於て執行せらるべき本日の長岡子爵追悼會は營口時間の午前十時より正確に行はるべき由なれば參拜者は時間を違へず參會せらるべしとなり

●本願寺の日曜說敎 本日午后一時及八時（營口時間）より日曜說敎を開き「慧燈大師著作の領解文に就て」てふ演題にて寺本布敎師の說敎ある筈なり

●妙心寺派の說敎 西營口老爺廟內妙心寺派布敎塲にては定例により本日午前十一時より古川布敎師佛說四十二章敎の續講を爲すといふ

●三船寫眞館のジオラマ 三船寫眞館のジオラマは愈ゝ本日より三日間公衆の縱覽に供する由殺風景の營口に斯る催しは極めて趣味ある企てなれば爾散旁觀覽に步を運ばるゝも亦以て一日の淸興とするに足らんか

●松榮座本日の替狂言 初幕小栗判官てるて姬、切狂言かるかや道心なりと其役割は▲萬屋長右衛門、かるかや（千代花）小栗判官、玉屋與治兵衛（美根代）▲てるて姬、石堂丸（美根六）源氏ぶし語り、小美桝

●骨董錄
我國民が最も好んで食ふものは魚肉だ。魚肉の料理方は煮肴 てり燒 鹽燒、味噌漬等其他種々あるが其中最も好むものは予否予のみならず十人中七八はサシミ或は作り身とも云ふ料理方だと思ふ。サシミは生食で人爲を加ふることの極めて少ない點から先年或る灰殼邨は野蠻人の料理方であると云ふ說を稱へたことを聞いたこともあつたが成る程今日西洋料理、支那料理は世界で發達したる料理方だと云はるゝが其中にサシミに似た料理がないやうだ。して見るとサシミは亞弗利加や南洋諸島の蠻民は別問題として今日開明國の班に列せる日本國民獨特の料理方と云つても宜からふ。余体サシミは料理が單簡にして口に旨いのみならず消化も早いさうだ。予が實驗に據れば煮肴或は燒肴として白匁喰ふて飽、魚類をサシミに作れは百五十匁若くは二百匁は喰ふことが容易てある。吝嗇家の經濟から打算したら損だと云ふかも知らぬが滋養の點から見れば結構な食物だ。それかあらぬか我國の醫師は重症患者の峠を越へて肥立に向ふ者には或種の魚のサシミを喰はせて居る。近來清國人が何事によらす日本化して居ることは著いことだが食物までにも其影響を及ぼし南淸の長江沿岸の人民はサシミの味を知らぬ奴は共に語るに足らず抔灰殼を吹いてるそうだが日本の勢力範圍内なる北滿の淸國人は未だサシミの味を知らぬやうだ（蒼然逸人）

投書かご

▲遠來洋行の番頭さんに申上げます私は古賀といふ洋服屋で御座りますが日外ぞやは沖ノ島で失禮致しました貴方の御言葉では日本人の洋服屋は皆仕事 惡くて其上値段が高いとの事ですが値段の高いは當り前です第一支那人と日本人とは日々の暮しが違ふ仕事の上手下手もある貴方は支那に十四五年も居られるので日本人の上等の仕事は御目に留まらんでせうが手前共は失禮ながら縫目の綻ろびるやうな仕事は致しませぬ頭でなしに日本人の洋服屋は高値いと仰しやつては迷惑致します（永世街古賀洋服店）

▲投書かごの記事に電話局交換手の不注意が書いてあつたがそれはチツト酷だらうと思ふ如何となれば自分は或日加入申込の爲め電話局へ行つた序に好奇心に驅られ呼出數を勘定し見たら十分間に五十あつた却々忙しい本當に目 舞ふ位であつた漫に交換手を責むるは可愛想だお互もチツト注意して餘り手數を掛けぬ事にしたいものだや（黃口小僧）▲牛家屯の大男殿は御取持かよかつたか連りに上氣せ上つてさすが支那通丈けに支那語で惚氣らるゝさうなが御注意なさらぬと肩の星印がとれますぞ（感男）▲中形金庫一個買入れたし新にても中古にても善し讓渡し希望の方は（本社H迄）▲一力亭に新に藝者が來たさうだから早速探檢に出掛けて見たが生國は長崎ばつてんだが圍碁、生花茶の湯何でも御座れの樣子だ殊に圍碁は田舍初段は確かださうな藝名は黑白子と名乘つて聊か鼻が高い樣だから生花茶の湯の碁天狗連中は一度行て鼻柱をへし折つては何うです（碁注進）

●泥中の蓮（出稼女性の龜鑑）
このやうに賤しき稼業はして居れど義理と貞操が立てたさに仇し枕は交はしやせぬ、とは何やらにある文句それとこれとは似寄の咄なるや、茲に生れ故郷は名古屋市梅川町志村與三次養女志村スウ（十九）と云ふ者あり今は二本町の片端れに住居をなして千客萬來を誓願し日々の糊口を濡らす女なり、其當地に來る以前は昨年七月故郷を出て朝鮮の鎭南浦又は平壤に渡り現在の業を營みて其日を暮し居りたるか昨年十月頃平壤にて數多の華客に接する事となり日々稼業專一とまめ〳〵しく稼ぎ働き居たる中如何なる惡魔の身入りしか彼地に於ての俠客とか云ふ本名加賀見次郎仇名を青木の次と云ふ二つ名のある惡漢に附纒はれ或る夜增屋とか云ふ料理店より是非にと招かれたるも最早十二時過の事とて體よく斷りたるに再び使を以て是非に〳〵との懇望に對手は顏を賣る商賣人其顏も潰しては延いて己れの稼業にも係はる事故詮方なく使の人と共に出行きたる所彼青木は一方ならぬ喜びに互にさしつさゝれつ一獻傾け居りたるか青木は急に膝立て直し實は今宵遲くお前さんを聘んだも餘の義にあらず乃公に一夜の枕を交はして吳れぬかと意外の話に神ならぬスウは眞逆かこのやうの事とは夢更知らず最初の程は種々に言葉を濁し兎にも角にも今宵の所はと拒めば青木は俄に形を變じて脅迫釜敷文句を並べ剩さへ懷中よりピストル取り出し厭や應なしにウンと承知をすればよし萬が一にも應ぜぬ曉には之れだと差附けたれどスウは斷乎として應ぜざるに青木は今は最早之れ迄なりと實彈二發迄も放ちたるにスウは芝居もどきであらねど殺せば殺せと尙も凜として應せざれば青木は隱し置きたる氷の如き短刀スラリと引拔きスウが左の乳を目懸けて刺し尙返へす刀を以て右首に深さ七分計りの傷を負せたれば何かは以て堪るべき甘儘打ち倒れし故死せしものと思ひ直樣己れの喉笛を搔き切りて之れも現狀に倒れたり、スウは最早大丈夫と直ちに起き上り裏門より一目散に己のが宿に歸り一分始終の咄 最中へ又も青木は短刀提げ躍り込みたるも既に力盡きて其塲に打倒れたれは一面此由を其筋に訴へ係官臨檢して制規の手續をなし兩名を一時病院に擔ぎ入れ治療中スウは幸にし二週間の後全く舊体に復したれど青木は其後四十日間程經過して終に死せりと 扨ても凜々しき丈夫ならずや恐らく營口四百を以て數ふる誹裙中かゝる者幾人あるや將又スウとは誰れならん目下營口二本町松榮座にて好評を博せる岡本千代花 座 源氏ぶし語り艶容美音と歌はるゝ岡本小美桝が事なりとは永當〳〵

●蓋平夏雲山に遊ぶ
大石橋 懶山羊

戰塵漸く收つて滿地の春草萌へ出で弓は袋に刀は鞘に武人閑に若んで淸遊を思ふ某月某日將軍に隨つて蓋平に遊ぶ隨ふ面々には井上源太淸君あり苗村バンク芳太郎君あり村上ヲモ商眞君あり瓢の代りにサンドウツチ杖の代りに劍を携ふ蓋平の士民聳耳明日一時の雅懷を知らすして兎狩りかと疑ふ蓋平停車塲より行くこと十有五丁手綱を控へて前面を凝視すれば一朶の白雲地上より半空に横つて動かず將軍鞍を拍ち快哉を呼んで曰く是れなるかな杏花々々滿眸恰も之、夏雲の疊々たるに似たり願くば花を主人として木の下蔭に憩わんかなと一行馬を下りて花間に逍遙す見渡せば山野遠く連なり春色動き春水滿ちその風景畵の如し旅ならざるボタンに一枝の杏花を飾れる源太淸の君先づ唸れり

ぼんやりと春野にチヤンが二三人

春草を踏み山腹に踞し天地の美に打たれ無想の境に入りて花に語れる將軍も亦

かゝる地に惜しき杏 花盛り

次でバンクの君ヲモ商の君もヌタひ玉へり

小春日や占領滊車の乘心地 眞

雲ならで籠はあんずの花盛り 芳

杏樹數千株山麓より半腹に榮え四時の眺望佳ならざるなし春は白雲の横はれるが如く夏は綠葉淸風を生して凉氣身に沁み秋は明月……て樹影婆娑たり而して冬の雪景や天地の大觀たらずんばあらず今や此地風流將軍に依つて世上に知らる墨人雅客の淸遊は花神の歡喜する處ならん乞ふ一遊せよ

●營口花信 編輯局諸兄、司法部附近の某料亭には尙ほ一人の無名の尤物あり大阪產にして其名はお信、容色の別に見るに足るなしと雖も、又た必ずしも一願の値せずと爲さす、義大夫を以て特技と爲す三味巧妙にして咽喉亦た甚た賞す可き者あり嘗て一夕聘せられて座に列る者々鼻下長某あり一座の染子に懸想し暗に意を示して頻に其の歡心を求む染子見て以て宛も知らさる如し某即ち煩悶自ら禁する能はず遂にお福の手續に依賴して其意を滿足せん、計る、お福密に某を一室に招き低語して曰く染子は絕世の美人也足下は絕世の無男也絕世の醜を以て絕世の美を奪はんとす目的を達するの道は唯た知術に在り妾の特技は三味を執りて唸るに在り知術に於ては即ち零也折角の御依賴なるも此の媒合は妾に於ては到抵企つ可らす請ふ具意を諒せよ某唯々として出再び座に付て大聲以て語るに委細を以てす一座即ち判決の巧妙を賞し、切呼んで曰く出來たり裁判官爾來お福は裁判官を以て卓名せられ斯界の勢望隆々乎たりと又た象からすや吁飽には染子あり蘇にはお福あり共に之れ斯界の珍某亭も仕合せ者なるかな（飛人伯樂）

汽車

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇

税關手續
一、船舶輸出入荷物取扱

代辦 貨物、兼寓客商 ……

諸鐵工製作 營口 ……鐵天

營口地方天氣豫報 自二十一日午後六時 至二十二日午後六時

小説

新作小説　**おとし胤**　德田秋聲

（四十二）

熱田といふのは、同族の貴公子である。熱田子爵家の世子で、數馬とは、中學時代からの友達で、眞の親友だ。矢張大學に籍を置いて、政治科の學生で、俊才の譽が高い。年は、數馬より二ツ弟だが、動作が輕快で、聲が爽で、加之紅顏の美少年であツた悌は、今も殘ツてゐて、色白なのに頬の紅、それで五ツも六ツも年下に見えて、若い、青年の血潮が身裡に沸き返ツてゐるかと思はれる。

一体が美男だ、そして才子肌だ。從ツて調子も好いから、誰にでも好かれる。勿論顏にも、體にも、威嚴と謂ツては無いが、代にはまた優美だ、お高尚である。所詮貴公子の極印が打れてゐて、誰の眼にも間違はない。數馬と較べると、一方が馬を陣頭に躍らせる勇士ならば、一方は詩歌管弦に春の夜の明け易きを喞つ雲上人である。

此の貴公子が、薄色の背廣服を着て、細身のステツキを振廻しながら、お小間使に案内されて、菊花壇の前に立ツた。彼は玄關へは上らず、直に庭口から廻ツて來たのであツた。

「や……」と熱田は、山高帽子を除ツて、昨日御吹聽だツたから、菊を拜見に來たよ。何んだか、尚だ少し早いやうだね。」

「むゝ、尚だ早い。」と數馬は輕く謂ツて、「何んだ、甚く洒落て來たな。歸は、何か、烏森か。」

熱田は、サツと顏を赧くした。

「馬鹿を謂へツ。花壇を拜見するに、制服では、花に對して禮を缺くと思ツて……」と謂ひながら、瞥と光の姿を見て、「や、孃さんですか。先日は、大變失禮しました。」

「いゝえ、私こそ……」

と光は、無邪氣に、輕くお辭儀をした。

光も、熱田とは、もう懇意になツてゐたのである。既に先頃も、土岐先生に連れられて、熱田と一所に郊外を散歩した。そして種々な面白い話を聞いた。何んといふことは無いが、光は、熱田が好になツた。

「併し何んだね、子爵が御熱心なだけあツて、見事に出來たね。」と熱田はまた、數馬に向ツて、「子爵は、お在邸か。」

「在邸だよ。近頃は、滅多に外出しない。」

「然うのやうだね。當年の辣腕は、此の菊を培ふ優しい手となツて了ツたんだね。」

「ま、然うさ。」

「淵明は、菊を植ゑて、悠然として南山を見ると歌ツてゐるが、當邸からでは、富士を見るんだ……」

然う謂へば、今日は、富士が能く見えるぢやないか。」

と振返る彼方。庭の木立を越えて、蒼然、大空に浮んでゐるやうな東海の名山。巔にはもう、雪を被ツて、空明な秋晴の空に聳ゑてゐるのであツた。

間も無く小間使は、麥酒に林檎とハムと葡萄とを添ゑて持ツて來た。そこで三人亭に入ツて、光は、酌をする、兩人は頻にコツプを傾けて、見る間に四五本の瓶が倒されて了ツた。能く談じ、能く飲むとは、數馬のことであらう。熱田は、饒舌ることは、能く饒舌るけれども、飲む方に掛けては、受太刀で、直に眞ツ紅になツて了ツた。併し光を笑はせるのは、何時も熱田の方で、三人の笑聲は、乾燥いだ空氣に反響して、高く、御殿の方までも響くのであツた。寂とした庭園は、これが爲に活氣が添ゑられた。

數馬は、何處へ麥酒を飲むだのか、尚だ醉ツたやうな顏もしないが、何か頻に面白くなツて來たやうな樣子で、

「何うだ、熱田、これから、何處かへ清遊を試みやうか。」

「清遊とは？……」

「郊外散歩さ。」と光を見返ツて、「ね、光さんも行かないか。な、熱田、行かうぢやないか。」

「むゝ、孃さんがお出なら、僕も行かう。」

「私、參ツてよ。其樣なに遠くでございませんのなら……」

「何有、遠くへ行くもんか。」と數馬は、衝と立起ツて、「ぢや、熱田、直に出掛けやう。秋は、何んだ、郊外散歩に限る。」

自ら先に立ツて、亭を出やうとすると、

「數馬、何處ぞへ出掛けるのか。」

と聲を掛けながら、のツそり、三人の前に立たれたのは、海鹿子爵で、子爵は、三人の賑な笑聲を聞かれて、些の氣遣は、漫に此處へ足を向けさせられたのであツた。

廣告

從二位勳一等子爵長岡護美君去る八日薨去相成候に付來る二十二日(日曜日)午前十時ゟ日本人會々議室に於て**追悼會**執行仕候條御參拜相成度此段有志諸君に謹告候也

四月十五日

主唱者

片山敏逵　松倉善家　飯塚松太郎
小鍋芳　小泉市太郎　牛島吉郎
隅野準一郎　佐々江嘉吉　後藤麟太郎
瀬波専平　大野弘　石崎廣治郎
會田常夫　小田原寅吉　阿部善三郎
宮村榮治　新庄暾　上野源次

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄
▲患者の入院治療を諾す
姙婦の入院を諾す

院長　醫學得業士　森矯
副院長　醫學得業士　長船郁太郎
（産婆大道しげ子）

◎院長森矯久敷歸省中の處今般歸營診療に從事す
◎本院齒科開設　齒科醫　兒島市郎
五月一日ヨリ開設ス

森病院（電話一五五）

和洋雜貨　**盛進商行**

新着
椅子。卓子。窓懸。卓懸。花莚。マツト。油多加織。ビロードセン。

梅毒婦人科　外科胃腸病　全身魔醉局處魔醉新器械無痛手術
專門日本醫院
輕便入院
永世街警務課ノ前

本年二月三月四月ノ三ケ月分本會々費ハ來ル廿五日限リ最寄リ區長迄御差出相成リ度候也
牛莊日本人會

アスコ、ゴランクダサイ
まつのや

開業
日華貿易兼運輸業
一昨年來御引立を蒙り候本公司は昨年平和克復後暫く休業中に候處今般更に開業業務聊か擴張仕候間倍舊の御愛顧偏に奉希候
月日
元神廟街二四八號（電話局向）
義安公司
廣告

一料理用白味噌赤味噌
一煙草類、東京淺草海苔、木炭、萬醬油、白米、鰹節等
罐詰類、
一瓶詰雲丹、酒盜、コノワタ、
一清酒澤龜特約並に瓶詰、洋酒類、
一酢、ビール　葡萄酒、
其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らず御用仰付られ度伏て奉願上候也
營口永世街第廿八号
雜貨商　**大原洋行**

御料理旅館　**扶桑館**
奉天大西關大什字街第五分局千〇六十八号
館主　堀田ハル
電話

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

齒ノ衛生治療ハ一日モ等閑ニ附スベカラズ然ルニ當營口ニ良齒科醫ナキハ予輩ノ常ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ二三有志者相謀リ在天津ノ該科名醫田添豊三君ノ出張ヲ請ヒ河岸通リ元高田洋行跡ニ於テ本日ヨリ約三週間治療ニ從事セラル、事トナレリ君ハ夙ニ天津佛租界ニ於テ開業シ內外人ノ信用ヲ博セラル其治術ノ巧否今復之ヲ贅セズ齒患ニ惱メル諸君及齒ノ衛生ヲ重セラル、諸君ハ此ノ好機ヲ逸セズ陸續君ガ治療ヲ受ケラレンコトヲ望ム
四月十二日
營口有志者白

會席料理　**三日月**
營口警務課前南に入る

廣告
●金鵄印日本酒七百樽
右競賣は雨天の爲二十三日に延期す
四月廿二日
競賣人　チエー、コツク

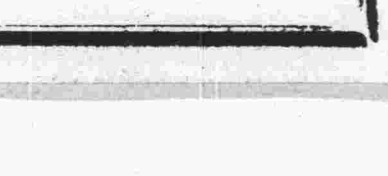
關內外蘆漢鉄道貨物
一運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司營口支店

各位
時下艶春花を見るの好時機と相成候處各位益々御清康の段奉賀候降而弊閣儀料理部開店以來幾多諸君の御愛顧を辱し深く御禮申上候隨而今回旅館部開設いたし室內の衛生裝飾等細大漏らさす御客樣への御便利を充分注意致し候間重ねて御引立を蒙り度此段伏而奉願候
營口二本町
祇園閣旅館部
主人　敬白
（電話一四四番）

和洋會席　**御料理**
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町
日本館
（電話百三十）
各位樣

瀛船出入案內
英航丸　廿一日出帆　門司、横濱行
能登丸　本日入港
御乘船の御方は御一報被下候へば切符持參可仕候尚御手廻荷物は當店送達組に御用命仰付被下度奉願上候
大阪商船會社荷客取扱所　內外船舶代理保貸借仲立　輸出入税関手續　解船人夫運搬請負　水陸輸送貨物仲次所　諸品委托賣買　倉庫業
西北街　**德重洋行**

御手輕料理
一釜飯　御一人前　五十錢より
一卷壽し　一本　十五錢より
一湯豆腐　一壺　廿五錢より
一東京壽し　一人前　卅五錢より
右之外御誂に應ず
月日
營口元神廟街二〇九號
翁亭



和洋御料理
一力
香代
弊店儀開業以來各位の御引立に預り日增隆盛に赴き候段奉鳴謝候隨て今般各位御愛顧の萬分一に酬ひん爲め內地より有名の料理人並に藝者仲居を呼寄せ殺風景なる滿洲に得難き珍味と快感を相供度座席裝飾に至る迄凡て一新致候間續々御來遊被成下度奉希上候
樓主　敬白

料理部開業披露
弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粋を拔き藝妓仲居も弊店付として內地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈々本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候
追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館　營口第一ホテル
料理　第一樓
（電話八四）

廣告

當公司今般業務擴張の爲め□□敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はす和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依托に應し最も懇切敏速に處辨す

建築部主任技師工學士 森川範一
土木部主任技師 永原万吉
營口元神廟街第百七十二號(電話一七三番)
土木建築請負業 井上公司

萬代不朽 毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告

ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく龜破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室内装飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく變色の憂決してなし

米國紐育スタンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号(電話一七三番)
井上公司

醇良自釀清酒

エジプト煙草
インペリヤ(金口)
ヱキスタラフワイン(キルク口)
右特約仕代價者精々安價にて賣出し候間多少に不拘御用命被下度候

牛莊港東營口
宅合名會社營口支店

永昭洋行
(電話百三十七番)
(元神廟街)
(雜貨商)

本行開設以來已週一載幸蒙貴客商愛顧接踵購買致敝行名譽日增不勝榮幸現將發賣各種罐詰味噌醬油以及磁器油器傢俱東洋綢緞帽子手巾地毯洋傘團扇玻璃鏡匲婦女一切妝品胰皂皮包皮箱等類物美價廉核實輕減定價不二貴客賜顧請玉臨面議可也此啓

銘酒 白鶴
諸雜貨

今般新荷着仕候に付ては卸小賣共に是迄の賣直段より壹割引酒及米・罐詰類は五歩引を以て販賣仕候間多少に不拘御用命被仰付度偏に奉願候 敬具

營口元神廟街 井門洋行 電話一八五
遼陽西門外 仝支店

胃腸病新藥

滿洲特約一手販賣
東瀛大藥房
營口大街

本劑專治脾胃失調飲食不化之諸症脾胃疼痛過用米麪精濃腹泡脹飲必驚婦人懷孕嘔吐之症熱病稍愈腸胃未平於調和又如停食胃口不開肝胃氣痛肚腹膨脹兩便苦澁之諸症均有卓效
發明者日本大阪醫學得業士
矢島猴太郎 謹白

日本有名秘藥物發售廣告

否顧者以婦人及一用各切香水髮料從以廉價比各貨格外減價…營口永世街回春堂本洋行總售處可也…此告白

回春堂大藥房
三木洋行
(電話百九十番)

大日本帝國有名方劑 化粧品一切賣藥
右內地同様の廉價を以て卸小賣共謹で御用命を仰ぎ度候
大阪谷回春堂 營口永世街三木洋行

回春堂大藥房
三木洋行
(電話百九十番)

清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉(電話一三六番)

發賣
材木
標子
木炭
塩川商會
遼陽小西門内
鹽川商會
●建築

外に
電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八千本
用材北海道産松大角(自廿五尺至三十尺)二万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

木村寫眞館

最新流行之
寫眞撮影法に附ては叮嚀且迅速を旨とし光線の配合及位置等に尤も注意をなし各位の御嗜好に任せ撮影可申上候
弊館は更に一大勉强をなし價格の廉なるよりも進て調製方を叮嚀になし寫眞一組毎に一枚を相添可申候事に相定申候
營口二本町

質屋營業
精々勉强御融通相計り可申上候間多少に不拘御申付け被下度願上候
營口永世街南裏第三十六號
北斗洋行質屋部

小料理
滿月
平の町(電二二)
滿月支店
平安(元都樓跡)
店主 吉木[illegible]

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎(電話弐七十八番)
即席和洋料理 東京樓支店(電話四十四番)
西洋料理仕出し御需に應ず

美味安價西洋料理 牛莊亭
營口永世街五十二號鶴の湯東隣

日本帝國醫科大學模範藥業局特許
攝津灘石崎合資會社釀造
鶴之澤 ※ 醇良清酒
滿洲特約大販賣
周 裕和盛號支店
清國營口西北街
電話八十二番
東清鐵道裕和盛運輸局
大連湖北彩票每日賣出
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種
○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、
○支店清國、芝罘
○本店日本長崎梅香崎
澤之鶴は 既に定評ある天美祿!
裕和盛は 清商中日本通の本張!

大日本政府特定
營口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

業務擴張

弊所儀從來活版印刷業罷在候處今回業務擴張の爲め印刷器械並に歐文活字を購入し更に歐文印刷部を新設し且つ技術に熟練なる職工を聘傭致從來の御高恩に酬がため非常大勉强仕高需に應し可申候條尚不相變倍舊の御愛顧を垂れ御用命被仰付度伏て奉懇願候 敬具

活版印刷
并に製本
弊所特色
●印刷鮮明
●價格低廉
●叮嚀專一
●期日正確

營口入口永世街東二本町角
川本活版所

開行時刻

山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五
唐山至天津	上六、一二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、	下六、四五
北京至[illegible]	下[illegible]	下八、三〇
天津至唐山	上十一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

一、爲替附キ荷物ハ便利ヲ計リ可申候
一、引換書御送附ニ相成レハ諸費立換ヘ配達致ス
一、保管可申候
市場北三階樓
時計店ノ二階
宮原公司

日本大阪川口濟商六十四番
瑞通祥號
經理人　張旭初
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般

(門會街東)
喜場豫報

昨日の氣溫
日溫　最高溫度七十三度一　最低溫度四十七度八
昨年との　高廿四度四　高十三度一

宮門抄

二十五日
禮部　太常寺　正紅旗值日無引見　嚴修謝授學部右侍郎並稟
學部左侍郎　恩
召見軍機　本日巳刻
皇太后
皇上升
勤政殿德國使臣穆默覲見

奏議

前督辦鐵路大臣盛奏覆陳滬甯鐵路情形片

再臣准兩江總督周馥咨稱光緒三十一年八月二十一日奉
上諭有人奏滬甯鐵路縻費太鉅請減輕成本剋期完工冀早贖回而保公益各摺片鐵路關係緊要亟宜力求覈實自保利權所有滬甯鐵路工程欵項著周馥陸元鼎切實查覆並責成盛宣懷早爲收回以重路政而杜後患原摺片著抄給閱看欽此咨會欽遵查照辦理到臣伏查滬甯鐵路英公司璧利南來議辦欲甚奢借欵則連五年預備利息不逾三百二十五萬磅爭至估計工程核准所需之數始能售票僅准售發二百廿五萬磅矣估工則先定包辦二百十五萬一千六百八十七磅爭至每一英里不准逾一千六百六十六磅仍須隨時節省實報實銷矣完工限期則先定五年爭至二十九個月全工告竣　包辦限期而不限包辦價目矣購地則先定總公司如不能自辦另售小票二十五萬磅爭至總公司無欵可籌亦不另售小票准在工程借欵內撥付矣收回年限則先定五十年或二十九年爭至十二年半即可全數還清註銷合同矣凡議一欵爭一欵璧利南久任中國總領事稔械百出並有英使再三催辦其時正值臣在苫塊之中派令道員陳善言朱寶奎反覆籌議稿凡數易幸賴張之洞在兩江署督任內當令璧利南赴汀甯該督又派員磋商增益而後定稿會奏經外務部路礦總局覆核欽奉
諭旨批准旋由鐵路總公司會同督撫臣遴派道員林賀峒等總辦購地局沈敦和等總辦管理處督飭總工程司格林森按照合同開標估價分段攢辦現在截至交卸綜稽欵項據管理處摺報上年十月初四日即西歷十一月底爲止欵計借票實收英金一百二十萬五千磅照時價約合銀一千五百六十九萬餘兩又各銀行回息餘銀四十四萬三千餘兩又淞滬移存材料歸甯滬動用估值銀四萬餘兩支欵計已撥購地一十五萬磅合銀一百八十三萬五千餘兩又撥還淞滬路墊款一百萬兩又撥借欵利息英金十三萬五千磅合銀一十八萬七千餘兩又淞路已用工料銀二百三十一萬四千餘兩存欵計存倫敦生息英金八十五萬九千九百餘磅約合銀七百一萬六千餘兩又存匯豐銀行銀三萬九千餘兩又照合同分存通商銀行生息銀一百八十六萬九千餘兩又存各處未用材料及現銀一百十一萬二千餘兩據購地局摺報上年十一月底爲止收款計銀一百八十三萬五千餘兩支款計撥付購地收用局具領各段購地及遷墳拆屋助貼[illegible]苗樹木薪費等項共銀九十二萬九千七百餘兩存款計[illegible]現銀九十三萬四千三百餘兩又銀行生息銀三十七[illegible]兩該局所購之地由上海起鎭江止共計一萬六百[illegible]領據均已分別移交存局仍飭該局員等詳細造册目[illegible]國購辦材料臣曾選派前在江南製造局之工程師彭脫駐　監視開標估値均有報單不容虛冒又據格林森聲稱初到中國不甚知中國工料價目估計自寬現已全行按照原估約可節省十成之一目下上海至無錫橋工土工全竣本年四五月間工抵無錫即可行車售票江蘇人煙稠密貨物繁盛行車進欵比較北方未必短絀論者慮進欵不敷支用似不盡然以臣度之此路工程必較速於京漢不致逾三十九個月之限期此路用欵必較省於京漢不致逾六千六百六十六磅之限數此路還本若照十二年半全數還清除造路二十九個月不計外爲時不及十年或須略籌資本以輔車利之不足然滬甯成路以後再由本省分籌小數湊還借本較之他省造路之前須由本省籌鉅款始能成路者難易已顯然矣臣奉
旨責成早爲收回意甚嚴切臣於遵議合同以迄派員開辦日夜以核實用欵剋期還本往復籌畫煞費苦心所有宏綱細目已派管理處總辦道員王勳赴京一一告知後任並將後本省應如何設法籌欵集湊毋庸續發小票之處酌擬咨呈督撫臣以期早日收回以副原議理合附片陳明伏乞
聖鑒謹　奏奉
硃批覽欽此

倫敦電報

●**中美互換祝電**　此次美國海底電線工事全竣已接續上海埠因之中美互交換祝電以賀其功口云（西四月十八日發）

●**美國震災後聞**　此次在美國屬桑富蘭洗斯科埠地震之起實在上午五點鐘時尙昧爽市民皆周章失措寢衣出屋避竄混亂之狀莫名震動約二分間而斃人至二千餘名之譜勢之劇烈可以想見按在該埠中最受損害者爲其東北部巴仁轄街製造工業之盛區也聞在該街震倒一客棧五層樓者埋沒七十人又崩壞一大房屋收容多數租房人者壓斃八十人云（西四月十九日發）

中外要聞

●**允許俄電接線**　俄國日前向政府要求中俄兩國之電線當在喀什噶爾接續一節業經外務部咨商電政大臣袁世凱即爲允許

●**咨請改正九廣路約**　兩廣總督岑春萱致電外務部略謂九廣鐵路須由中國行築設只自附近九廣之處准歸英國自辦此事尙屬可行惟英國要求向彼購買築路材料及告貸築路資本兩層實有礙　答允爲此咨請貴部速將草約改正若英國不允則請將此事暫停交涉可也云云

●**禮學兩部劃分權限辦法**　禮部日前以學部既立其中所辦之事有應改隸學部者因特咨商學部請將各事劃清權限以便照辦茲聞學部集議處議定嗣後翰林散館優拔貢朝考照實　員丁憂起復及改服更名乘襲世職等事均仍歸禮部管理惟畢業生考試事宜及以後學堂畢業所考取之舉貢廩附名册則統隸於學部業已咨覆禮部查照

●**學部電請五大臣考察女學**　學部電請五大臣於考察各國學制時併細考女學制度

●**俄人佔地遊牧**　圖府遼源州毗連蒙古境界商販人等皆因蒙漢交涉爲業由該州之北賜一片荒蕪草萊沒入林木蔽日蓋蒙人牧養之利也今正有俄國向日遷於滿洲之居民千餘突來此地伐木搆廬聲稱奉國主之命來此游牧於是賣犢購駒並將羔豚之類縱於茂草中牧養以久計　民大譁幾至格鬥而俄民則洋洋自得謂兩國政府當業有成議按此事確否未悉

雜報

●**東民浩刼**　昨聞哈爾濱來人歷歷傳說該處近有山東苦民數十萬口無所傭工川資已罄欲回不能欲謀一餐而不得餓斃者無算前數日一日之間在東橋附近自縊者八人聞之令人慘然此予親聞諸來人者語者東三省大吏素以愛民自表今何寂寂無聞耶或以畛域之分山東民與滿洲無關耶抑或屬在外界與華官無涉耶且該處設有三省交涉局局員所司何事亦忍坐視不一設法報告援救耶果爾則視民如艸芥　千年之錮習眞無人理也予因本埠之富商巨賈多係東省人民故特登報端爲哀鳴請命或速設義捐携資往賑或電請上海萬國紅十字會及各善舉紳董火速飛救庶不至盡爲餓莩愚民無知遭此浩刼凡有人心者皆耳不忍聞其館主人又明人也爲予所夙欽佩伏望速登報章俾衆週知倘有同志者予當爲聊効奔走呼號但能救得一命勝造七級浮屠不勝拭目以待

●**見機遠禍**　昨聞港船人云前日有一兩去商船適値風逆將於海曲暫避忽由正南遙來一船迅而且輕艙內隱有多人攢露疑爲盜船該船掌急命拽篷北駛先有糞船泊於彼處既而果見來船投彼搜翻糞船因其污穢不堪委而西去此船若非舟子有識難免被賊刦劫云云

●**暹人到新**　昨由新民府來人云日前該處忽來暹羅國人二十餘名居於旅店游街市並無營業或日暹人到此專爲考查商業然不悉其究作何項營生云

叢談

●**防疫法**　瘟疫之原因　瘟疫者鼠類流行之一疫俗名老鼠瘟是也當有未經傳染於人之先必廣行於鼠類其毒蔓延遂傳於人凡人家有斃鼠即爲瘟疫流行之實據也其病原即細菌存於病者之痰中以顯微鏡驗之則歷歷可見此細菌混入塵埃污穢物浮蕩于空氣中而感染於人

傳染之由來　傳染人之道有三途一由皮膚之創口二隨呼吸而由鼻入三混于飮食而入三者之中由於皮膚創傷者最多故人若有小刃竹木等傷雖極細微决不可等閒視之應時消毒嚴密包裹又當免蚊虱蚤等之咬螫由鼻口而入者其豫防之法凡人出街　用海綿息器掩之亦可向飮食而入者其豫防之法需將一切生食之物禁除必由熱湯洗滌茲擧有其豫防法之宜注意者如下一力行運動節省嗜欲常保身體之健康　二住房衣物身體均宜淸潔住房則時時撒布嗜消毒液即臭水　三衣物及被褥枕簟當於日光曝露每三數日必曬一次　四不妄行出街如夜中雨中不可訪有疫之家　五不得已出街須用海綿息器否則以手巾包海綿掩於口鼻　六飮食均用熱不宜用冷　又當食時必以熱水洗食器　七若有感冒若罹腸胃及其他一切疾病必速服藥醫治　八若見斃鼠不可以手觸之須將火箸投石炭酸液中然後注石油燒棄之

NEWCHWANG, SUNDAY. APRIL 22, 1906.

It began to mizzle during Friday evening, and the rain developed towards noon into a regular steady affair pattering it away till late last evening.

The local Weather Bureau sent in another warning of a storm yesterday afternoon at 1 p.m. An atmospheric depression was located in the north of Chihli Province, moving in the north-eastern direction and threatening the coast of Korea and Liao-tung.

We learn that Lt.-Col. A. Koyama, the Administrator of Mukden who has lately been held up in an unenviable light by some harsh garrulous critics (the "China Gazette" and the "Chefoo Daily News") in connection with Mr. A. Hosie's visit to Mukden, left his post for Japan on sick leave on the 16th inst. He had been for long in poor health and sorely needed a recuperation which, we hope, freedom from care amidst the more congenial environments at home will speedily bring to him.

An accident resulting fatally was reported on board the S.S. "Suchow" which put out early yesterday afternoon. One of the Chinese crew, while at work on deck, about 4 on Friday afternoon, slipped and pitched head foremost into the ballast tank. He was fished out unconscious and at once taken into the Newchwang Hospital for treatment. It was found on inspection that the precipitous fall had caused a bad fracture in the skull attended with copious bleeding and the compression of the brain. The man never regained consciousness and breathed his last early yesterday morning.

The coast waters southwest of Newchwang appear to be infested with a large ring of petty pirates actively engaged in harassing junk traffic.

On the 14th inst., a native resident of West Yingkow named Kan Te Ho (干得河) reported to the police the missing of his junk which, laden with ice, had left for Chefoo on the 5th inst. together with several others. The latter had arrived safe at their destination, but nothing had been heard of the former.

It happened on the afternoon of the following day the missing vessel with its crew returned bringing a rather thrilling account of its capture by pirates after sundown on the day of its departure, when approaching Ho Men Kai (河門街) situated some 25 miles southwest of the port.

The junk was lustily called upon to stop by a gang of over 20 freebooters who had lain in wait near the shore. It made a start to break away, but was frightened into a standstill by a hot fusillade from the desperadoes. The prize was hardly worth the gun-powder wasted upon. For, its master entrusted with a snug sum of money to buy fish with at Chefoo had had the prudence of taking passage in a steamer. The crew who had nothing better to lose than their coarse clothing valued in all at about 30 yen were put through the daily round of menial drudgery till released on the 14th inst., when the bandits took to the shore and fled near Erh Chia Kao (二家溝) about 23 miles southwest of Newchwang.

The news was given of the simultaneous release of a second Yingkow junk belonging to a Yuan Wen Hsuan (原文軒) by the gang on the 28th ult. while on its way to Chefoo on a similar venture.

A third vessel, Ma Yun Chi (馬雲吉), another Yingkow man, owner, sailed on the 13th inst. for Chefoo, but was taken possession of by a band of 25 near Hsiung Yo (熊岳), who then proceeded to Lan Chi (藍[illegible]) on a predatory cruise. More than 10 wealthy residents of the district were kidnapped on board and set free for a ransom of over Y. 10,000. The Chinese mounted police of Kaichow drove them out on the sea, who upon the seizure of a better prize, let go the first one.

All reports to hand go to show that these bands that are scattered at various points, belong to the same ring consisting of more than 100 roughs armed with Russian repeating rifles, Chinese rifles, and pistols.

An expedition under the gendarme sergeant Nakagawa set out in a steam launch at daybreak on the 18th inst. It threaded its way along the coast inspecting 49 vessels in all before it reached the reported landing place of the pirates near Erh Chia Kao. However, on account of the shoal, the sergeant could not go ashore to investigate the circumstances attended on their flight and had to start homeward prosecuting his searching process on his returning trip till he arrived here towards evening.

營口旅館料理店案內（いろは順）

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十四號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號 店主 麻田久二（電話五一）

旅館 大和館 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 店主 和田常松

和洋 御料理 公樂園 南永世街

東京 生蕎麥 一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館 料理 金城ホテル 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署 御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

爲替相場（四月二十一日）

日本向 一百圓 七十一兩二十五錢（軍票百圓に付）
上海向 一百〇二圓五十錢（同）
天津向 一百〇三圓五十錢（百弗に付）
芝罘向

油豆行情（中曆三月十九日）

さるそば 第一更科 さるそば 第二更科 營口元神廟街 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 叮嚀專一 一力 營口永世街 店主 堀万助

並ニ溫泉 毎日新湯

和洋 料理 松月亭 營口元神廟街一四三号 住松信太郎

料理 都樓 平野町 店主 坂本ちか

遼陽旅館料理屋案內

旅館 料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理 會席 菊水館 主任 朝枝園捷

旅館 西洋料理 遼陽館 主任 永瀨宇吉

旅館 料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理 會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽俱樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理 會席 來々亭 主任 石田、清

和洋 料理 御旅館 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号 上松榮治郎

一和洋御料理 遼東館 遼陽城內東街

本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり内外人往来頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏荘美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得へく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彦に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

日本品最近物價表 加藤洋行

一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 仝 七圓五十錢
一仙花紙 一帖（六十枚） 六十錢
一塵紙 一〆 一圓七十錢

奉天旅館料理屋案內 奉天城內鐘樓南大街

旅館 奉天館 奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理 日清俱樂部 奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿 瑞豐館 奉天小西關大街北側 館主 河野嘉吉（電話 號）

會席御料理 高等御旅館 天神樓 溫泉付大勉强キレーデヲイシヒ 奉天小西關大街北側（電話 號）

旅館料理店 日の出樓 奉天小西邊門通（元紅葉館跡） 樓主 大瀨七造（電話十七號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江能男（電話 號）

旅館 料理店 梅松館 奉天城內灰市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎（電話 號）

旅館料理店 大和館 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ

旅館 大正館 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行

奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すへき樣に相成居候間御投宿の節至極便宜こ御取扱可申上候以上

旅御料理 館 高砂館本店 奉天十間房第十五號

高砂館支店 奉髙館 奉天城外廿四 店主 宇木智平

旅館料理店 日奉館 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 東洋館 奉天大西門外小什字街（電話 號） 主任 藤島初野

御料理 梅ケ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 勉強館 奉天小西關外北長發園隣

高等御旅館 茂林館 奉天小西關大街路北（電話二十五號）

旅館料理店 日章館 奉天小西關大什字街南へ入

牛肉すき燒 雞肉 日章亭（電話 號）

御旅館 瀋陽館 奉天小西門外大街路北

一仝 二十枚續 三錢二厘以上四錢
一狀袋 百枚 十三錢以上十八錢
室內裝飾品及寢具 矢野洋行
一蒲團 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
一座ブトン 十帖 六圓五十錢以上三十五圓
一毀燵 五圓五十錢以上十四圓

一疊 二圓六十錢以上三圓
一薄椽 十枚 八圓
一麻緞通 一疊敷 三圓
一綿緞通 仝 三圓五十錢
一由加多織 仝 一圓七十錢
一白毛布 二枚 八圓以上十五圓

和田保 牛莊分莊 本店大阪

M. Iizuka,

Contractor,

Architect and Civil Eginneer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao

Ying Kow

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付度願上候

金城館 販賣部

特別室落成 營口金城ホテル 旅館

會席御料理 金城館

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

自造 煉瓦●瓦 並に各種石材販賣 營口青堆子 加州組（電話八十六番）

惠比須ビール新荷着 ●金升洋行 ●盛進商行

着荷廣告

筑前博多單帶、仝伊達卷、御召類、セル地、ゴム引防水布外套、金庫、錫製品各種、輕便水濾器械、洗桶、專賣特許米洗器、萬年筆、洋菓子、ネクタイ、洋傘、等勝手道具いろ〱

營口 加藤洋行（電話八十番）

四月十八日ヨリ仝廿八日マテ本社事務員仝診査醫當地滯在契約ノ御便利相計リ申候

明治生命保險株式會社牛荘代理店 加藤洋行

營口元神廟前 飯塚工程局材料部（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結ひ廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

大連 東洋ホテル 大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

西洋家具製造販賣 營口青堆子 清水寧木局（電話九十四番）

發賣

料木、杆子 一丈 一丈二
亞鉛板、白糖、醬油、日本米、菓子、朝日麥酒
雜貨一切御賣

日本酒春駒一手販賣

營口元神廟街 捌荷洋行（電話一四七番）

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
$4.80 per 6 months.

本紙定價廣告
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 九弗六十仙
二十一字詰一行一回 銀二十仙